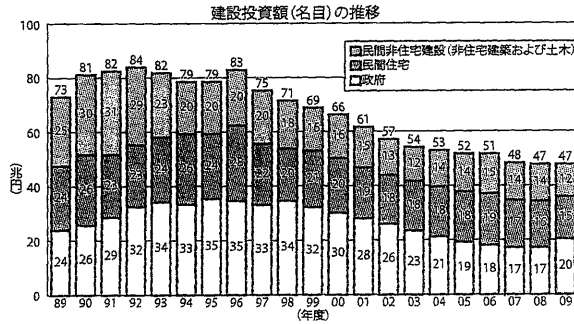


## 09年度建設投資 国交省見通し



# 補正効果で前年度並み47.2兆円

国土交通省は24日、09年度の建設投資見通しを発表した。投資総額は前年度より100億円少ない47兆2000億円(前年度比0.0%減)で、約30年前と同程度の低水準になると予測している。内訳は、政府投資19兆8400億円(14.8%増)、民間投資27兆3800億円(8.2%減)となっており、民間投資が

不況で冷え込んだ分を、政府投資が補って前年度並みの水準を確保する構図。政府投資は、08、09年度にそれぞれ補正予算が編成された影響で前年度実績を上回る。国交省は「補正予算がなければおそろしくマイナスになった」(総合政策局)としている。

09年度の建設投資の建築・土木別内訳は、建築27兆7600億円(1.1%増)、土木19兆4600億円(1.6%減)で、建築投資の

うち住宅は15兆8700億円(3.5%減)、非住宅は11兆8900億円(8.0%増)と予測している。建築では、政府投資の非住宅分野が、学校や庁舎、医療機関の整備・耐震改修事業などにより前年度比140.3%増と大きく伸びるため、全体ではプラスになる。民間住宅建設投資は、民間住宅建設・土木は、12兆0100億円(13.7%減)の見込みで、企業の設備投資は低迷が続くと予測している。

09年度の建設投資の建築・土木別内訳は、建築27兆7600億円(1.1%増)、土木19兆4600億円(1.6%減)で、建築投資の

うち住宅は15兆8700億円(3.5%減)、非住宅は11兆8900億円(8.0%増)と予測している。建築では、政府投資の非住宅分野が、学校や庁舎、医療機関の整備・耐震改修事業などにより前年度比140.3%増と大きく伸びるため、全体ではプラスになる。民間住宅建設投資は、民間住宅建設・土木は、12兆0100億円(13.7%減)の見込みで、企業の設備投資は低迷が続くと予測している。